

---

# 学校保健分科会

---

## I 研究のあゆみ

4月19日(金)	2024年度名教組教研オリエンテーション (2024年度名教組教育研究活動の進め方)	【教育館】
5月2日(木)	発表テーマ報告・集約	
5月10日(金)	研究計画の検討	【教育館】
6月3日(月)	研究内容の検討(第2次実践の検討と研究のまとめ方)	【教育館】
6月~8月	個別にレポート検討	
9月10日(火)	市集会発表内容の検討 (発表プレゼンテーションの確認および発表手順の確認)	【教育館】
9月21日(土)	第74回名古屋市小中特別支援学校教職員教育研究大会	【ウインクあいち】

## II 研究協議の概略

生活習慣について(1本) けが・安全について(3本) がん教育について(1本)  
目の健康について(1本) 心の健康について(1本) 水分補給と健康について(1本)

- 子どもたちの実情から健康課題を捉えた8本の実践が報告された。子どもたちが直面している健康課題を主体的に解決するため、自分事として捉えさせたり、危機意識をもたせたりするような手立てを取り入れた実践が多く見られた。実践では、ICT機器を活用したけがの手当て動画や生活習慣の振り返りワークシート、けが予防マップ等が紹介された。また、飲み物に含まれる砂糖量や痛みスケール等、見てすぐに分かる教材教具や、日頃の保健室での来室状況や視力検査の統計といった専門的な情報、豊かな心を育むために学校全体で取り組んだ「幸せ言葉」の募集等、子どもたちにとって、より具体的で心に響くよう工夫された取り組みが報告された。

学校保健の取り組みは、日々の生活を送る上での礎である。生涯を通して健康で安全な生活を誰もが送ってほしいとの願いのこもった実践報告ばかりであった。

## III 今後に残された課題

どの実践からも子どもたちの意識の変化や行動の変容がみられた。しかし、短期間の実践では心と体の変化が実感しづらかったり、その場限りになりがちであったりと、継続することが難しいとの報告もあり、繰り返し指導をしたり学校全体で取り組んだりする必要性を感じた。

また、保護者からは、「学校保健の取り組みは、日常生活と密接であると改めて感じた」と、学校と家庭との連携が大切であるとの意見をいただいたが、「保健だより」を実際に見たことがなかったり、学校保健の取り組みがあまり家庭に伝わっていなかったりする声も上がった。さらに、実践を行った結果はどうなったのか変容も見せてほしいとの意見もあがり、授業参観を活用したり、学校ホームページやSNSを使って学校の様子を配信したりするなどして、学校と家庭が身近に感じる取り組みを展開するとともに、連携をより強化していけるよう思慮する必要があると感じた。